

西陣織

【産地組合】西陣織工業組合

（産地紹介）

西陣という名は、室町時代の応仁の乱の時、西軍が本陣とした場所に、乱の後、四散していた職人が再び集まり織物を復活したことから付けられました。織物の歴史としては、平安時代以前に秦氏によってもたらされた織技術にまで遡ることができます。西陣織は宮廷文化を中心に、織文化の担い手として発展し、技術・技法を磨いてきました。



西陣織の特徴は、「多くの品種を少量ずつ作る方式をもととした、先染めの紋織物（染色した糸を使って模様を織り出す）」にあります。綴（つづれ）、錦、緞子（どんす）、朱珍（しゅちん）、緋、紬等、多くの種類の絹織物が作られています。特に多色の糸を使う紋織物は絢爛豪華な糸使い紋様の精緻さを誇ります。

また、織り上げるまでには多くの工程を必要とします。これらの工程はほとんどが分業システムになっており、専門職の人々の手で行われています。概ね、企画、製紋、原料の準備、機（はた）の準備、製織、仕上げの工程に分けることができます。

（トピック）

- ・ 百貨店等の呉服売り場の販売員を「西陣織販売指導員」として認定する検定制度を創設します。正しい販売・正しいサービス力の向上を後押しするための制度で、西陣の多彩な帯やきものとの組合せ方など、「西陣」「西陣織」に関するあらゆる知識や理解を深め、正確かつ丁寧な説明で、顧客に「納得」と「安心」の気持ちを伝授し、その果実として顧客販売に役立てるのが狙いです。